

飛騨民俗村再整備構想



令和2年3月

高山市

目 次

1. 高山市の観光の現状	1
2. 飛騨民俗村の再整備の必要性	3
3. 飛騨民俗村再整備構想の策定	9
4. 再整備の方向性	11

1. 高山市の観光の現状

高山市の平成31年の観光客の入込みは473万3千人（前年比6.55%増加）で、平成17年の市町村合併以降、最高の入込みとなり、6年連続で400万人を超える入込みを維持している。一方、宿泊客数と日帰り客数の割合は、宿泊客が48.0%、日帰り客が52.0%となっており、平成26年以降宿泊客数の占める割合が半数を切るとともに、下降気味にある（表1）。また、地域別の入込みや、平成30年度に実施した観光動態調査からは、旧高山市内が382万7千人で全体の約8割を占めており、旧高山市内、特に古い町並周辺に一極集中していることがわかる（表2、グラフ1）。

さらには、平成30年度に都市計画課で実施した市街地交通状況実態調査において、八軒町通りから陣屋前交差点へ進入し中橋方面へ向かう車両は、土日平均で普通車が1,387台、観光バス等の大型車両が76台となっており（表3）、日中多くの観光客で賑わう中橋では観光客と車両が輻輳する状況となっている。

（表1）日帰り客と宿泊客の対比（千人）

区分		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
日帰り	人数	2,040	2,155	2,098	1,983	1,760	1,641	1,808	1,964	2,024	2,270	2,317	2,410	2,232	2,461
	割合	48.6%	49.6%	49.2%	49.1%	46.2%	47.1%	48.0%	49.8%	50.3%	52.3%	51.4%	52.1%	50.2%	52.0%
宿泊	人数	2,154	2,190	2,163	2,057	2,052	1,840	1,961	1,981	2,001	2,071	2,194	2,213	2,210	2,272
	割合	51.4%	50.4%	50.8%	50.9%	53.8%	52.9%	52.0%	50.2%	49.7%	47.7%	48.6%	47.9%	49.8%	48.0%
合計	人数	4,194	4,345	4,261	4,040	3,812	3,481	3,769	3,945	4,025	4,341	4,511	4,623	4,442	4,733

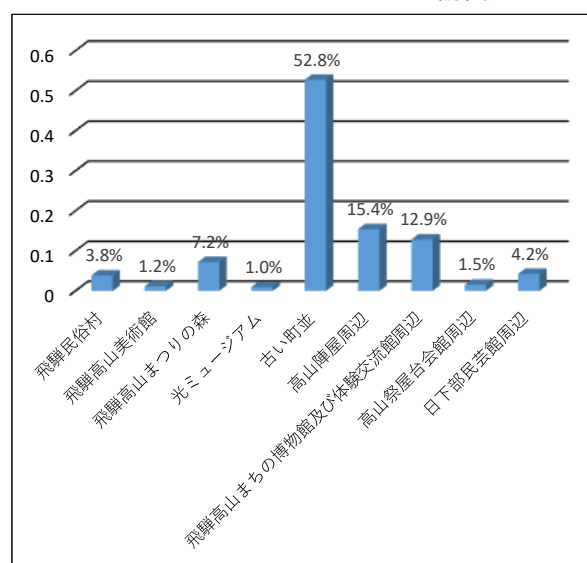
出典：平成31年高山市観光統計

（表2）旧高山市内とその他地域の対比（千人）

区分		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
旧高山市	人数	2,928	3,067	3,118	2,986	2,817	2,572	2,839	2,989	3,123	3,462	3,612	3,613	3,448	3,827
	割合	69.8%	70.6%	73.2%	73.9%	73.9%	73.9%	75.3%	75.8%	77.6%	79.8%	80.1%	78.2%	77.6%	80.9%
その他地域	人数	1,266	1,278	1,143	1,054	995	909	930	956	902	879	899	1,010	994	906
	割合	30.2%	29.4%	26.8%	26.1%	26.1%	26.1%	24.7%	24.2%	22.4%	20.2%	19.9%	21.8%	22.4%	19.1%
合計	人数	4,194	4,345	4,261	4,040	3,812	3,481	3,769	3,945	4,025	4,341	4,511	4,623	4,442	4,733

出典：平成31年高山市観光統計

（グラフ1）観光客の市街地（旧高山市）における主な訪問先（%）



出典：平成30年度高山市観光動態調査

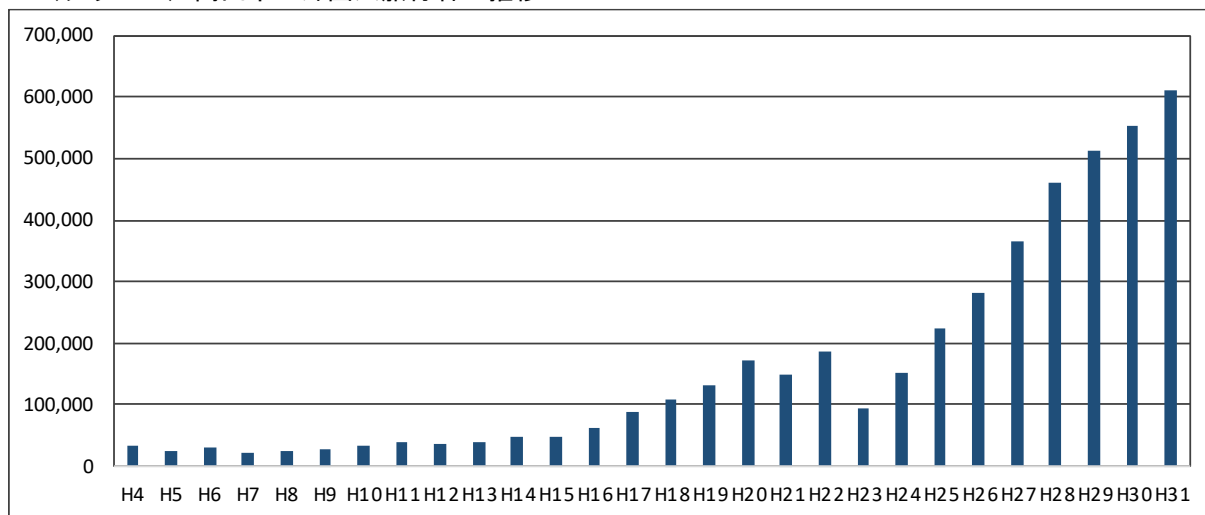
（表3）八軒町通りから陣屋前交差点への進入車両（12時間交通量：台）

	左折（陣屋方面）		直進（本町方面）		右折（中橋方面）	
	普通車	大型車	普通車	大型車	普通車	大型車
月曜日	178	3	514	9	1,171	76
火曜日	181	0	467	3	1,163	57
水曜日	141	4	423	4	1,078	62
木曜日	166	2	426	11	1,342	73
金曜日	177	1	488	6	1,191	69
土曜日	127	0	488	7	1,356	82
日曜日	129	0	519	12	1,417	69
平日平均	169	2	464	7	1,189	67
土日平均	128	0	504	10	1,387	76

出典：平成30年度高山市市街地交通状況実態調査

また、日本政府観光局（JNTO）による発表によると、平成31年の訪日外国人旅行者数は対前年比2.2%増の3,188万2千人となり、JNTOが統計を取り始めた1964年以降、最多となり、韓国を除く19市場で過去最高を記録した。高山市においても、平成31年の外国人宿泊者数は61万2千人で、前年対比で10.85%の増加で過去最高となり、7年連続で過去最高を更新し続けている（グラフ2）。

（グラフ2）高山市の外国人旅行者の推移



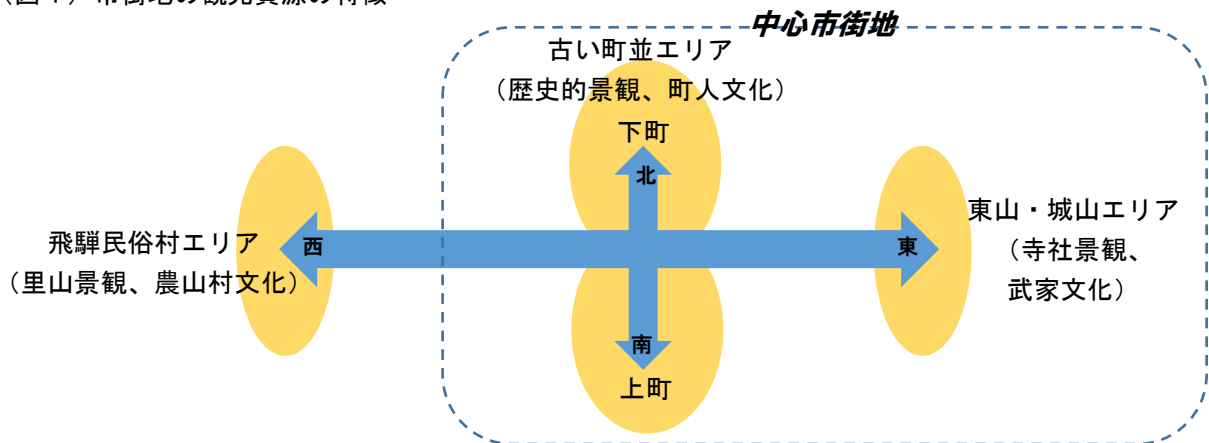
出典：平成31年高山市観光統計

2. 飛騨民俗村の再整備の必要性

◆飛騨民俗村の魅力と現状

飛騨民俗村は、有料施設の「飛騨の里」と無料施設の「民俗村」の総称である。施設内にある全ての建物が国、県、市のいずれかの文化財指定を受けており、飛騨地域のかつての里山や農山村地域の生活様式を知る上でも大変貴重な野外博物館である。これは、三町をはじめとする江戸時代から残る町人文化を色濃く残した古い町並エリアや、寺社が多く立ち並ぶ東山・城山エリアとは異なる要素（魅力）である（図1）。

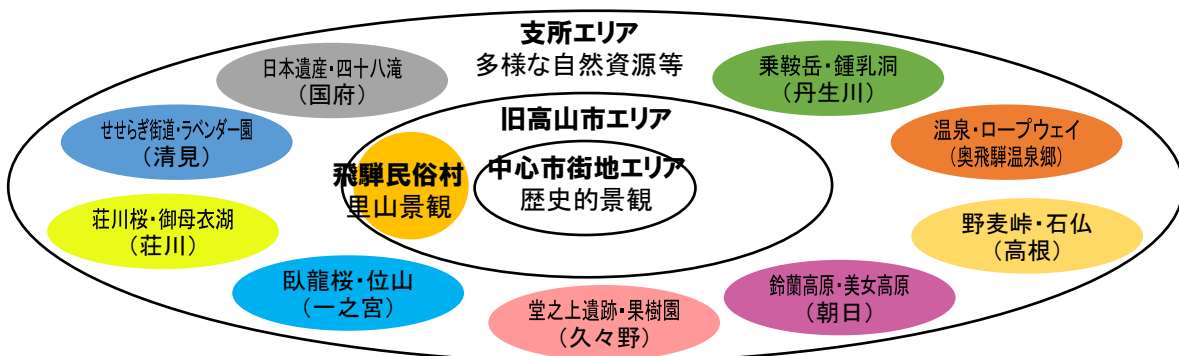
（図1）市街地の観光資源の特徴



また、高山市域全体では、支所地域が温泉地や山岳地域、田園風景や自然を多く残す豊かな農山村景観など個性豊かな特色を有しているのに対し、飛騨民俗村は江戸後期から明治期の飛騨地域の里山を再現した施設であり、支所地域とも異なる要素（魅力）がある（図2）。

さらには、世界遺産である白川郷や下呂市の合掌村が、切妻（きりづま）造りの茅葺合掌家屋の集落であるのに対し、飛騨民俗村には切妻だけでなく、入母屋（いりもや）造りの茅葺家屋や、飛騨地域の伝統的な建築様式である栗の樽（くれ）を使った樽葺家屋もある。様々な形態の建物がそろっており、野外博物館という特性を活かした独自の空間づくりや、一体的な管理ができることから、白川郷など他の観光資源とは異なる要素（魅力）を有している。

（図2）市全域の観光資源の特徴



このような魅力を有する飛騨民俗村であるが、その一方で飛騨の里の入込み（民俗村は無料施設のため入込みは不明）は減少しており、昭和50年代のピーク時には100万人に達するほどであったが、平成31年には162,593人となり、ピーク時の6分の1以下となっている（表4、グラフ3）。さらに、開設から45年以上経過しているため、施設の老朽化も進んでいる状況である。

また、飛騨民俗村の周辺についても、友好の丘から飛騨の里までの通り（飛騨の里通り）に多数あった団体客に食事を提供する店舗や土産物等を販売する店舗は、現在その多くが空き家となっており、平成29年度に実施した飛騨民俗村の再整備に向けた基礎調査では、12棟の空き家が確認されている。



観光客で賑わう飛騨の里通り（昭和61年撮影）

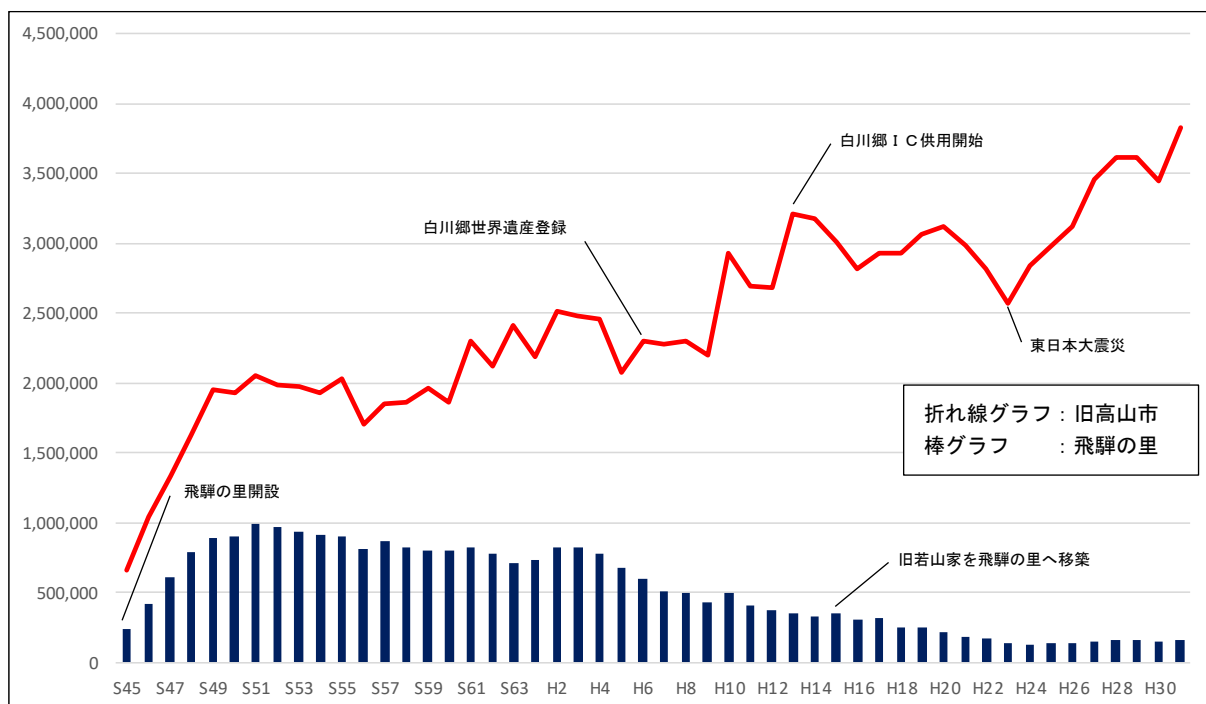
（表4）市街地（旧高山市）と飛騨の里の入込み比較

（上段：旧高山市 下段：飛騨民俗村 単位：人）

S45	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54
660,000	1,043,000	1,335,000	1,626,000	1,959,000	1,930,000	2,052,000	1,987,000	1,979,000	1,934,000
240,772	419,876	612,792	787,444	898,436	898,743	994,597	967,074	939,090	914,375
S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1
2,029,000	1,712,000	1,856,000	1,859,000	1,970,000	1,868,000	2,308,000	2,122,000	2,416,000	2,188,000
908,189	811,151	869,346	825,141	803,679	798,665	829,139	786,128	708,320	733,832
H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11
2,518,000	2,488,000	2,464,000	2,080,000	2,305,000	2,285,000	2,302,000	2,201,000	2,932,000	2,697,000
824,174	826,715	775,183	676,993	595,489	508,073	502,002	433,940	502,610	411,204
H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
2,680,000	3,218,000	3,183,000	3,008,000	2,817,000	2,931,000	2,928,000	3,067,000	3,118,000	2,986,000
379,369	356,326	334,270	355,417	304,704	316,397	257,098	249,975	213,917	189,210
H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
2,817,000	2,572,000	2,839,000	2,989,000	3,123,000	3,462,000	3,612,000	3,613,000	3,448,000	3,827,000
170,001	140,265	128,046	143,819	136,316	153,236	158,612	163,705	154,494	162,593

出典：平成31年高山市観光統計（H17までは思い出体験館の入込みを含む）

(グラフ3) 市街地(旧高山市)と飛驒の里の入込み比較



出典：平成31年高山市観光統計

◆基礎調査の実施

前述のような飛驒の里の入込み減少など、周辺地域を含む現状の把握と課題の抽出を行うため、平成29年度に飛驒民俗村の再整備に向けた基礎調査（以下「基礎調査」という。）を実施した。調査内容は次のとおりである。

【調査内容】

- ・アンケート調査 飛驒民俗村来訪者、非来訪者へのヒアリング調査（サンプル数931）
- ・エクスカージョン 年齢、性別、同伴者等様々な属性の参加者によるエクスカージョン
- ・個別取材 地域住民や関係団体へのヒアリング調査
- ・全体会議 地域住民や関係団体による意見交換を行う全体会議（2回開催）
- ・バリアフリー調査 障がい者支援団体による現地調査
- ・外国人模擬旅行 外国人旅行者目線による現地調査
- ・旅行会社への取材 首都圏や関西圏の大手旅行会社へのアンケート調査
- ・旅行商品調査 民間事業者が造成する飛驒民俗村に関する旅行商品の調査
- ・交通状況調査 飛驒民俗村までの交通手段や来訪される前後の旅程の調査
- ・空き家調査 飛驒民俗村周辺の空き家の管理状況等の調査
- ・パンフレット収集 周辺施設での飛驒民俗村に関するパンフレットの設置状況等の調査

これら調査の結果から、施設や設備の老朽化や、バリアフリーへの対応、情報発信の不足などの課題を整理した（表5）。

(表5) 各種調査から明らかになった課題

分 類	課 題
顧客ニーズへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・飛騨民俗村の施設や設備が老朽化している ・飛騨民俗村の施設内に物販や飲食施設がなく、休憩場所もない ・飛騨民俗村の施設内の順路や体験場所がわかりづらい
バリアフリー対応	<ul style="list-style-type: none"> ・飛騨民俗村ではスロープ等の貸し出しがない ・飛騨民俗村の障がい者用駐車場が基準にあっていない ・文学散歩道がバリアフリー化されていない
インバウンド対応	<ul style="list-style-type: none"> ・バスセンターでの案内(バスの乗り方等)が不十分である ・飛騨の里通りの歩道が十分に整備、維持管理されておらず、街灯も少ない ・駅から飛騨民俗村までの案内看板が不足している
住民・関係者が望む地域のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・文学散歩道や松倉城跡などの資源が有効活用されていない ・飛騨民俗村は市民の利用が少ない
旅行商品の造成	<ul style="list-style-type: none"> ・飛騨民俗村は知名度が低く、白川郷と競合している
交通アクセス・駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地エリアからのアクセスが悪い ・飛騨民俗村で駐車料金が課せられることへ不満 ・インターからの道路案内が少ない
空き家利活用	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家を活用するための補助がなく、空き家の老朽化が景観を阻害
プロモーションの展開	<ul style="list-style-type: none"> ・飛騨民俗村を中心としたエリアマップ(パンフレット)がない ・飛騨民俗村のホームページがスマートフォン等へ対応していない ・飛騨民俗村は中心市街地エリアの観光地と比べて認知度が低い

また、基礎調査の中で実施した地域住民や関係事業者を対象とした全体会議には、多くの方に参加いただき、再整備に対する関心の高さがうかがえたため、平成30年度にも意見交換会を実施した。地域住民等との意見交換会は、平成29年度の全体会議も含めると計6回実施し、主な意見は次のとおりであった。

【主な意見】

(飛騨の里、民俗村について)

- ・休憩所や食事ができる施設を充実してほしい
- ・駐車場を無料にしてほしい
- ・体験メニューの充実が必要(見るだけでは人は集まらない)
- ・歩行空間として文学散歩道の整備が必要
- ・文化財収蔵庫の重要文化財をもっと活用すべき

(松倉山について)

- ・松倉山に四季折々の樹木や花を植え、多くの市民が憩える場所としてほしい
- ・松倉城跡を整備し、多くの人が訪れる場所にしてほしい

(飛騨の里周辺地域について)

- ・ライトアップは非常に良いが、歩いて来訪される方も多いことから、街灯設置など歩行者の安全確保が必要(街灯がなく夜間が危険)
- ・空き家が増加しており対策が必要
- ・空き家に対する補助制度を作してほしい
- ・飛騨の里までの標識をわかりやすくしてほしい(迷っている外国人が多い)
- ・現在の散策マップでは分かりづらいため、専用のマップ作成が必要
- ・この地域の認知度が低いため、もっとPRが必要
- ・広域的な整備が必要(小さなテーマパークのようなものを作る必要はない) など

以上のように、地域住民には飛騨民俗村だけでなく、松倉山を含め周辺に対する思いも強いことがわかった。また、夜間の危険性など地域に暮らしているからこそわかる課題も把握できた。

◆現状の分析

これら調査等の結果を踏まえ、飛騨民俗村は他とは異なった要素を有する魅力的な施設であるにもかかわらず、入込みが減少している状況を分析すると、いくつかの要因が考えられる。

まず一つ目は、平成7年に世界遺産に登録された白川郷の存在である。平成19年に高山インターチェンジが供用開始となるなど高速道路網の整備進展により、高山市内から1時間程度で白川郷に行くことができるようになった。また、基礎調査において旅行会社への取材調査を実施した中では、「白川郷と被ってしまう」や「インバウンド客は白川郷を目的に来日する方が多い」などの意見があった（表6）。前述のとおり飛騨民俗村と白川郷とは似て非なるものであるが、一般的にはその違いが認識されておらず、新たな要素（魅力）を加えるなど、もっと明確な違い（特色）を打ち出すことが必要ではないかと考えられる。このため、飛騨民俗村の魅力を最大限に活かし、飛騨地域の民俗文化を体験・体感できる整備が必要である。

（表6）飛騨民俗村の旅行商品としての弱みなどに関する意見（国内の旅行会社8社への取材）

意見の内容（一部抜粋）
場所が高山駅から離れるため、行程がタイトなお客様にはお勧めできない。また、 <u>白川郷、相倉合掌造り（富山県南砺市）と被ってしまうのが難しい。</u>
訪日旅行商品においては、 <u>高山地区を訪れる方は自ずと白川郷へ足を伸ばすため（ほぼメインの目的が白川郷）、復元施設となる飛騨の里へ貸し切りバスや通訳ガイドを仕立てて連れていくまでは至らない。</u>
高山は外国人旅行者が多いが、もう少し SNS 等を駆使した外国人旅行者への情報発信があってもよい。
ホームページを充実してほしい。
高山市街地だけで満足される方が多い。
<u>外国人旅行者は「白川郷」や「君の名は」を旅の目的として来日する方が多い。飛騨民俗村に行く理由が必要になる。</u>
知名度の向上が課題。
白川郷のように建物が“生きた状態”ではなく、単なる展示という“死んだ状態”では魅力がなく、入場料を払ってお客様を案内することはできない。

次に、施設の老朽化やバリアフリーが不十分であることである。基礎調査においても、利用者からは施設（設備）が老朽化していることや、砂利道のため車いすでの移動が困難であることなど、バリアフリーが不十分であることへの不満が聞かれた。このため、誰もが安心安全に施設を巡れることができるよう飛騨民俗村の建物の計画的な修繕（リニューアル）を行うことが必要である。

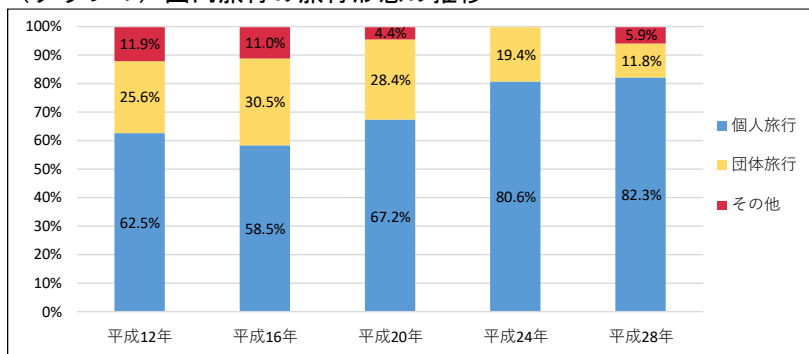
また、情報発信の不足も影響していると考えられる。昨今の旅行者はスマートフォンやタブレット端末から情報を得ることが多いが、現在の飛騨民俗村のホームページは平成14年に作成されたものであり、それらが情報端末に対応していないほか、英語以外の外国語への対応もできていない。このため、ホームページを改修し、スマートフォンやタブレット端末

等への対応、多言語への対応を図るとともに、SNSなどインターネットを活用したタイムリーな情報発信を行う必要がある。

一方、市場の変化の状況から分析すると、バブル経済の崩壊以降、全国的に団体旅行が減少し、個人旅行へシフトしてきた影響も考えられる（グラフ4）。昭和50年代から昭和60年代にかけて飛騨民俗村の入込みが好調だったのは、飛騨民俗村が大型バスを受入れ可能な駐車場を有した施設であり、周辺（飛騨の里通り）にも団体客を受け入れ可能な大規模な飲食店や土産物店が立ち並んでいたため、多くの団体客が訪れたからである。

団体旅行の減少は、飛騨民俗村の入込み減少に影響しているため、体験型観光を含むコト消費への関心が高い個人旅行者をターゲットとした対応が必要である。

（グラフ4）国内旅行の旅行形態の推移



出典：(公社)日本観光振興協会「観光の実態と志向」より作成

さらに、飛騨民俗村の入込みの減少は、周辺地域にも大きな影響を与えたと考えられる。この入込み減少は、飛騨の里通りの店舗の減少に繋がり、この地域での滞在時間の減少（回遊性の低下）、賑わい（活気）の低下、さらなる飛騨民俗村の入込み減少と、負のスパイラル（悪循環）に陥り、空き家の増加の要因となったと考えられる。

このため、まずは市有施設の改修などの事業を先行して行い、入込みの増加を図りながら、地域住民、民間事業者、行政が一体となり諸課題に取り組むことで、新たな民間事業者の進出、この地域での滞在時間の増加（回遊性の向上）、賑わいの創出、さらなる入込みの増加といった正のスパイラルに転換させ、地域全体を活性化させていくことが必要である。

◆飛騨民俗村の再整備の必要性

飛騨民俗村は入込みが大きく減少するなど、現状では課題が多い状況であるが、高山市内の様々な観光資源とは異なる魅力を持ち、過去には100万人に達するほどの観光客が訪れたポテンシャルを有する施設であり、高山市の持続可能な観光地づくりのためには必要不可欠な施設であることから、行政と地域住民等が一体となって、飛騨民俗村及び松倉山など周辺地域を含むこのエリア全体の活性化を目指す再整備が必要である。

3. 飛騨民俗村再整備構想の策定

◆目標年次

飛騨民俗村の再整備は、行政と地域住民が飛騨民俗村の将来像やあるべき姿について思いを共有することが重要である。そのため、目標年次を10年間とする飛騨民俗村再整備構想（以下「再整備構想」という。）を策定し、市有施設の改修など市の判断で早期に実施可能な事業を先行して行いながら交流人口の増加を図り、その後地域全体に波及（回遊性の向上）させるために、地域住民や民間事業者が主体（市は側面から支援）となった事業を進める。

【目標年次：10年間】

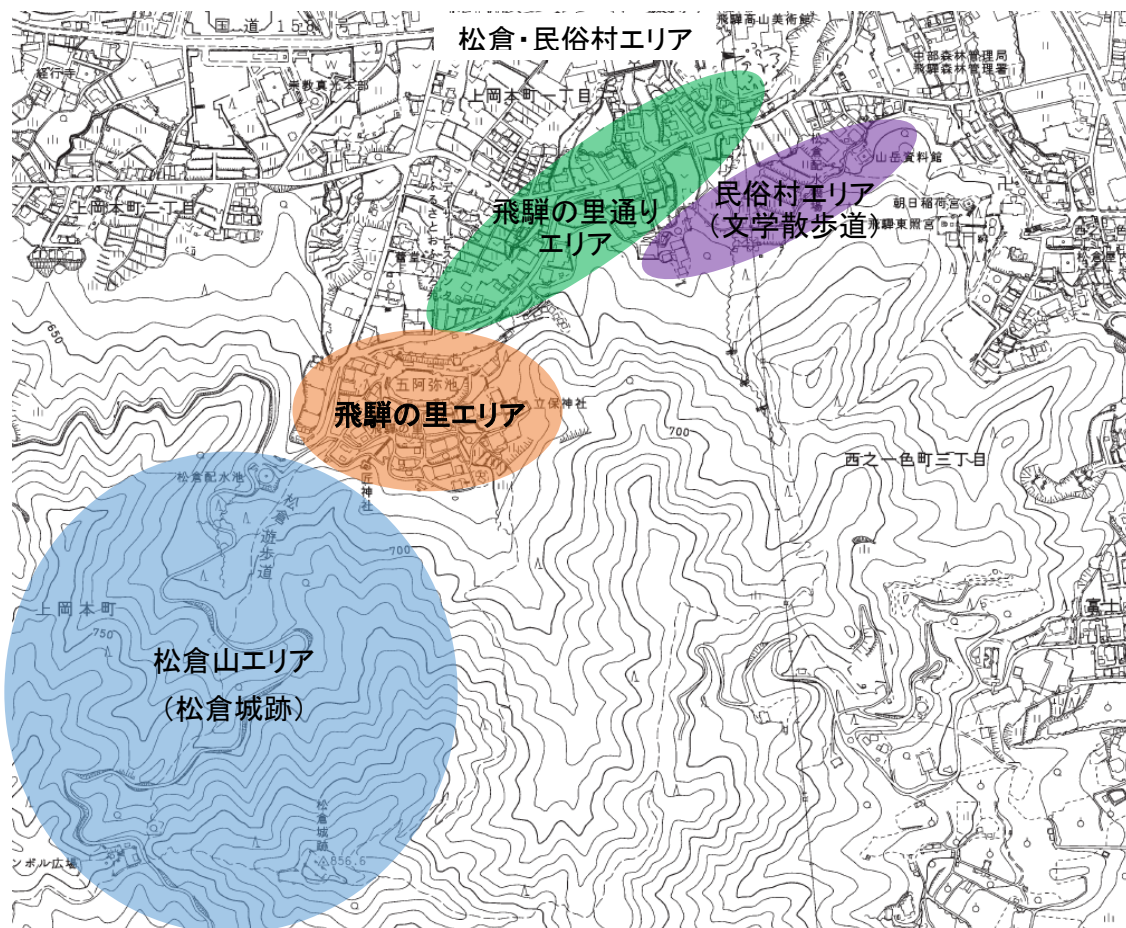
前期（5年目まで）：主に市が主体となった事業を実施（市有施設の改修など）

後期（6年目以降）：主に地域住民や民間事業者が主体となった事業を実施

◆対象エリア

前述のとおり飛騨民俗村とは飛騨の里と、民俗村（文学散歩道含む）の総称であるが、位置が離れていることから、飛騨の里エリアと民俗村エリアに分けて設定する。また、飛騨の里と松倉山は隣接しており、一体的に活用することが効果的であることから、松倉山も対象エリアとする。さらに、飛騨の里通りの賑わいの回復が再整備に大きく影響することから、飛騨の里通りも対象エリアとする。これら4つのエリア一帯を「松倉・民俗村エリア」とし、再整備を図っていく（図3）。

（図3）エリアイメージ



◆目指す姿

前述の「現状の分析」において、松倉・民俗村エリアが陥っている負のスパイラルから正のスパイラルへの転換が必要であるとしたが、古い町並などの中心市街地の観光スポットや支所地域の観光スポットとは異なる、松倉・民俗村エリアならではの魅力を楽しむ観光客や市民で賑わうことが必要であることから、目指す姿を次のとおり設定する。

【目指す姿】

「飛騨地域の民俗文化や里の風景のなかで非日常感を楽しむ多くの人々で賑わう」

◆目標値

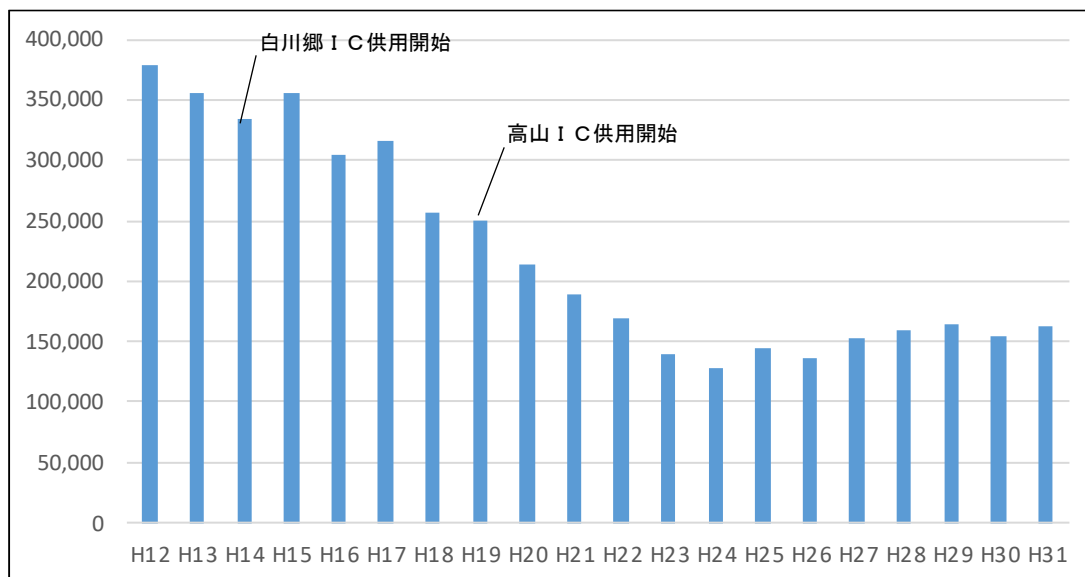
現状の分析でもふれたように、高速道路網の整備進展により高山市内から白川郷まで1時間程度で行くことができるようになるなど、世界遺産白川郷の存在が飛騨の里の入込み減少の要因の一つとなったと考えられ、白川郷インターチェンジが供用開始となった平成14年頃から飛騨の里の入込み減少が一段と加速している（グラフ5）。このため、白川郷インターチェンジ供用開始前の入込みまで回復することを目標とし、平成13年の入込み数約35万人を超えることを目指す。

また、飛騨の里の入込み増加を地域に波及させ回遊性の向上を図ることが必要であることから、飛騨民俗村を含む「松倉・民俗村エリア」に訪れる方々の平均滞在時間が半日（4時間）以上となることを目指す。

【目標値】

- ・ 飛騨の里の入込み数「35万人以上」
- ・ 松倉・民俗村エリアの平均滞在時間半日（4時間）以上

（グラフ5）白川郷 I C 供用開始後の飛騨の里の入込み



4. 再整備の方向性

◆各エリアの位置づけ





「飛騨地域の民俗文化や里の風景のなかで非日常感を楽しむ多くの人々で賑わう」状態になることを目指し、以下のとおりエリアごとの位置づけを設定し、整備をすすめる。

【位置づけ】

飛騨の里エリア	「再整備構想のメインエリアとして、体験メニューの充実など体験型観光の拠点とする」
民俗村エリア	「様々な体験メニューの提供のほか、文化財収蔵庫の活用等により、飛騨の民俗文化を学べるエリアとする」
松倉山エリア	「松倉山の自然が満喫でき、観光客だけでなく多くの市民が憩えるエリアとする」
飛騨の里通りエリア	「地元食材を提供する食事処や、飛騨の民芸品等を販売する店舗が建ち並び、人々で賑わう活気のあるエリアとする」

◆課題解決のための整備の視点

再整備構想の策定にあたっては、前述の現状の分析から見えてきた課題を基に、「体験型観光の推進」、「バリアフリーの推進」、「情報の発信」、「地域の活性化」の4つの視点からエリアごとに具体的に整備を進める。

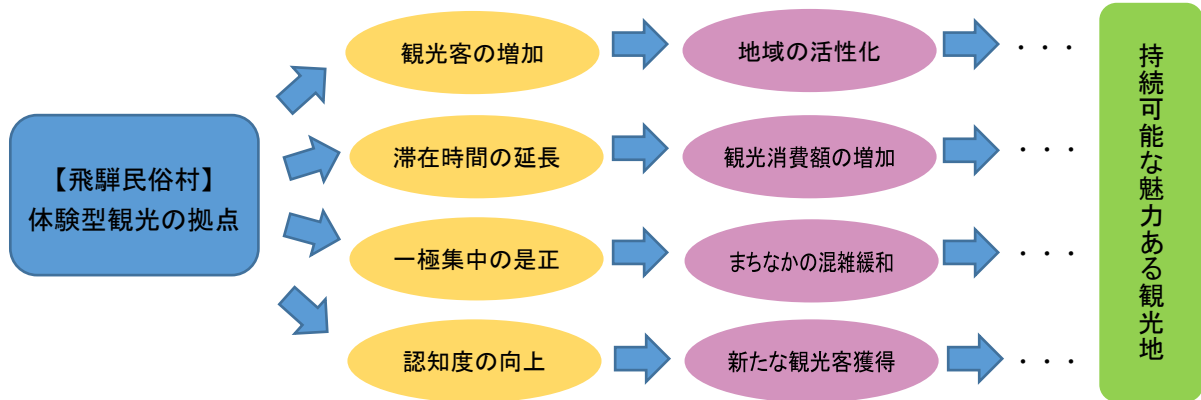
	体験型観光の推進	バリアフリーの推進	情報の発信	地域の活性化
前期	<ul style="list-style-type: none"> 飛騨民俗村における飛騨の民俗文化を体験・体感できるコンテンツ（有道しゃくし等民芸品の作製、囲炉裏での飲食、馬・牛・蚕の飼育など）の整備 飛騨民俗村建物の貸館やイベント会場としての貸出し 飛騨民俗村のライトアップの強化による夜間観光施設としての確立 飛騨の里まつり等のイベント開催 など 	<ul style="list-style-type: none"> 文化財建築物の計画的な修繕 飛騨の里駐車場への多目的トイレの設置 歩行者の安全確保のための飛騨の里通りの街灯整備 文学散歩道の整備（散歩道の景観に配慮した舗装、ベンチや看板設置など休憩施設の整備等）など 	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンやタブレット端末などのモバイルに対応した情報発信（飛騨民俗村ホームページの改修など） 飛騨民俗村の建築物や文学散歩道の文学碑への多言語ガイドシステムの導入 飛騨民俗村のPR動画作成 など 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家や空き地活用のための補助金制度の創設 観光特化型バスの運行及びパークアンドライドの検討 松倉城跡の国指定史跡化、松倉山や文学散歩道での四季折々の花や樹木の植樹 文化財収蔵庫の収蔵物の公開 飛騨民俗村を含む周辺施設（飛騨高山美術館やティバアエコヴィレッジなど）との共通入場券の販売 など
後期	<ul style="list-style-type: none"> 飛騨民俗村内の文化財建築物に宿泊できるなどの機能の整備 前期に取組んだ事業の継続 など 	<ul style="list-style-type: none"> 飛騨の里通りの車両交通制限（一部の区間を車両進入禁止とし、歩行空間を確保する）の実施 前期に取組んだ事業の継続 など  <p>※写真はイメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前期に取組んだ事業の継続 など 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家を活用したインキュベーション施設（起業家を支援するための施設）の整備 松倉城跡保存活用計画の策定及び当該計画に基づく整備（遊歩道の整備や眺望景観の確保等）の実施 友好の丘旧売店施設の活用 松倉山の景観整備 まちづくり計画の策定やまちづくり協定の締結 前期に取組んだ事業の継続 など 

※整備の詳細や上記に記載のない整備の実施などは、10年間の構想を進めていく中で随時検討していく。

◆期待される効果

飛驒民俗村が体験型観光の拠点となることで観光客の増加が図られれば、地域の活性化や、新たな民間事業者の進出も期待できる。また、市内での滞在時間が延長され、飲食やお土産、宿泊といった観光消費額の増加にも繋がる。さらに古い町並エリアに集中する観光客を分散化させることで、まちなかの混雑の緩和を図ることができる。また、認知度が向上すれば、新たな観光客を獲得できるなどの効果も期待できる（図4）。

（図4）期待される効果

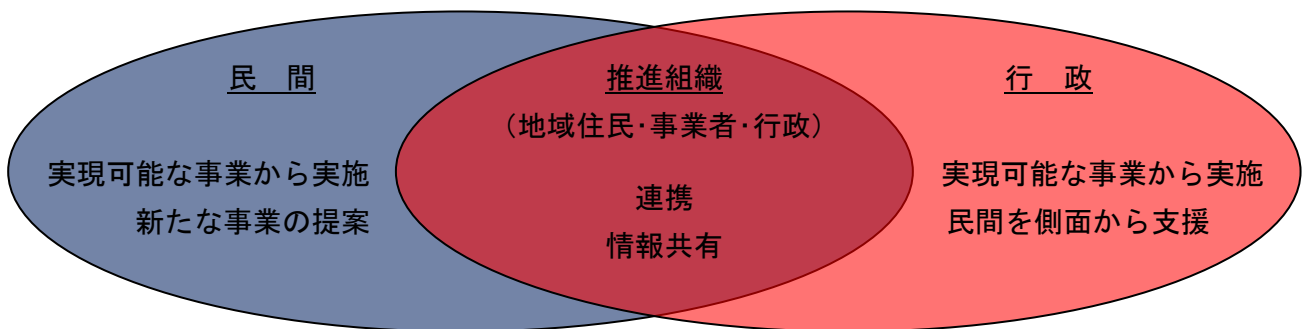


◆構想の実現に向けて

構想の実現にあたっては、行政と民間（地域住民や関係事業者）のそれぞれの役割を明確にしながらか協働を進める。

また、様々な事業を推進する組織（地域住民、民間事業者、行政）を立ち上げ、情報共有を行いながら取り組みを進める（図5）。

（図5）官民協働のイメージ



飛驒民俗村再整備構想

発行 令和2年3月
高山市商工観光部観光課
高山市花岡町2丁目18番地
TEL 0577-32-3333 (代) FAX 0577-35-3167
E-mail kankou@city.takayama.lg.jp
<https://www.city.takayama.lg.jp/>